

MAGANET/ELECTROMAGNET REPULSION-ATTRACTION CONTINUOUS ROTATION POWER GENERATOR

Patent Number: JP7255165
Publication date: 1995-10-03
Inventor(s): IIZUKA SHIGENOBU
Applicant(s): SHIGENOBU IIZUKA
Requested Patent: □ JP7255165
Application: JP19940084196 19940315
Priority Number(s):
IPC Classification: H02K53/00
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To provide a motor which has realized improvement of efficiency by attaching a power generation coil to a motor which continuously rotates only with a repulsion force and an attracting force of a maganet and an electromagnet and provides less power consumption by utilizing an intermittent current which flows when the switch ON-OFF is repeated.

CONSTITUTION: A rotor 1 is alternately provided with a part where magnets 2 are arranged and a part where these magnets are not arranged and the magnets 2 are arranged with equal interval with the one pole provided at the external side for the rotor 1 and the other pole deviated from the center. The electromagnets 3, 4 are provided close to the rotor 1 and are fixed therein. A cam 6 is also provided on a rotor shaft 8 and it is then in contact with a brush 5. The brushes 5, 10 are provided with a contact switch 7 and these brushes are mounted on a brush fixing frame 13. A screw fixing frame 12 is provided with a brush fixing screw 11 and is then mounted on the brush fixing frame 13. The brush fixing frame 13 and a bearing 9 are mounted on an external frame 14.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-255165

(43)公開日 平成7年(1995)10月3日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

府内整理番号

F I

技術表示箇所

H 0 2 K 53/00

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全4頁)

(21)出願番号 特願平6-84196

(71)出願人 592032061

(22)出願日 平成6年(1994)3月15日

飯塚 重信

栃木県宇都宮市江曽島2丁目7番18号

(72)発明者 592032061

飯塚 重信

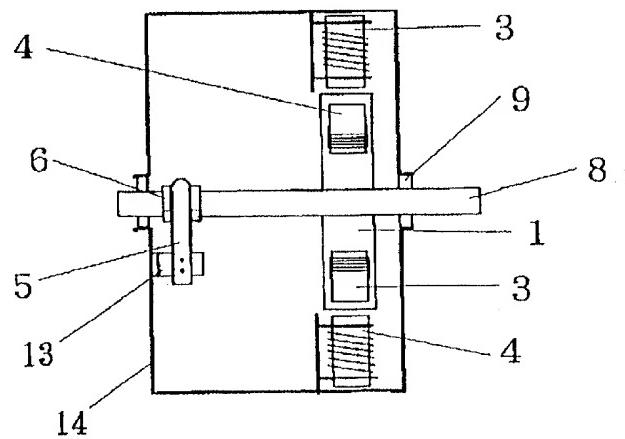
栃木県宇都宮市江曽島2丁目7番18号

(54)【発明の名称】 磁石・電磁石反発吸引連続回転発電装置

(57)【要約】

【目的】 この発明は、磁石と電磁石の反発力と吸引力だけで連続回転し、スイッチの入り切りを繰り返したときに流れる間欠電流を利用した消費電力の少ない電動機に発電用コイルを取り付け、効率向上を実現した電動機に関するものである。

【構成】 回転子1には、磁石2を並べる部分と並べない部分を交互に設け、磁石2は回転子1に一方の極を外側に、他方の極を中心よりずらし、間隔を同じくして並べ取りつける。電磁石3、4は、回転子1に近づけ、固定する。回転子軸8にカム6を設け、これにブラシ5を接触させる。ブラシ5、10には接触スイッチ7を設け、これらをブラシ固定フレーム13に取り付ける。ネジ固定フレーム12にブラシ固定ネジ11を設け、ブラシ固定フレーム13に取り付ける。ブラシ固定フレーム13と軸受け9は外枠14に取り付ける。



【特許請求の範囲】

- 【請求項1】 (イ) 回転子1には、磁石2を並べる部分と並べない部分を交互に設ける。
 (ロ) 磁石2は、回転子1に一方の極を外側に、他方を極の中心よりずらし、間隔を同じくして並べ取りつける。
 (ハ) 電磁石3を回転子1に近づけ、固定する。
 (ニ) 電磁石4を回転子1に近づけ、固定する。
 (ホ) 回転子軸8にカム6を設け、これにブラシ5を接触させる。
 (ヘ) ブラシ5には、接触スイッチ7を設ける。
 (ト) ブラシ10には、接触スイッチ7を設ける。
 (チ) ブラシ固定フレーム13にネジ固定フレーム12を取り付け、これにブラシ押さえネジ11を設ける。
 (リ) ブラシ10にブラシ押さえネジ11を接触するように設ける。
 (ヌ) 外枠14にブラシ固定フレーム13を取り付ける。
 (ル) 外枠14に軸受け9を設ける。

以上の如く構成された、磁石・電磁石反発吸引連続回転発電装置。

- 【請求項2】 回転子1を固定し電磁石3、4を回転自由にした、請求項1の磁石・電磁石反発吸引連続回転発電装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、磁石と電磁石の反発力と吸引力だけで連続回転し、スイッチの入り切りを繰り返したときに流れる間欠電流を利用した消費電力の少ない電動機に発電用コイルを取り付け、効率向上を実現した電動機に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来の電動機は、磁石の反発力や吸引力をエネルギーとして利用し、消費電力を小さめたものがなかった。また、フレミングの左手の法則を応用したものであり、負荷をかけ続けると消費電力が増加し、過熱していた。しかも発電用コイルを取り付けることで100%を越える効率向上を実現したものがなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 したがって、磁石の磁力を電気エネルギーに変換することで入力を越える出力が現実になれば、いずれ枯渇するであろう天然資源に代わるクリーンで無公害な新しいエネルギー源になることができる。これは人類の永年の夢であった。本発明はこの夢を現実化し、エネルギー問題の解決に貢献しようとして発明されたものである。また、負荷をかけると、直ぐに電流量が増加し、このため過熱すると故障したり、これに付着したほこりなどに引火し発火の原因になっていた。本発明は、こうした欠点をも除こうとして発明されたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 いま、その構成を説明すると、

- (イ) 回転子1には、磁石2を並べる部分と並べない部分を交互に設ける。

(ロ) 磁石2は、回転子1に一方の極を外側に、他方を極の中心よりずらし、間隔を同じくして並べ取りつける。

(ハ) 電磁石3を回転子1に近づけ、固定する。

(ニ) 電磁石4を回転子1に近づけ、固定する。

(ホ) 回転子軸8にカム6を設け、これにブラシ5を接触させる。

(ヘ) ブラシ5には、接触スイッチ7を設ける。

(ト) ブラシ10には、接触スイッチ7を設ける。

(チ) ブラシ固定フレーム13にネジ固定フレーム12を取り付け、これにブラシ押さえネジ11を設ける。

(リ) ブラシ10にブラシ押さえネジ11を接触するように設ける。

(ヌ) 外枠14にブラシ固定フレーム13を取り付ける。

(ル) 外枠14に軸受け9を設ける。

(ヲ) 電磁石3と電源とブラシ5、10は、直列に配線する。

【0005】

【作用】 本発明は、以上のような構造であるから回転子1が回転すると電磁石4に誘導電流が発生する。この電流は外部に出力でき仕事をさせることができる。また、ブラシ押さえネジ11で電流量を調整することができるで回転数を制御することができる。

【0006】

【実施例】 なお、本発明の他の実施例を述べると次のようになる。

(イ) 磁石2の群れの数を増したもの。

(ロ) 電磁石3、4の数を増したもの

(ハ) 図5のように電磁石3、4の両極を利用したもの。

【0007】

【発明の効果】 本発明は発電用の電磁石4を取り付けることで入力を越える出力を実現した。これを実験結果で説明すると、入力エネルギーを100%としたとき、発電時の効率が95.4%であった。したがって、損失は4.6%である。このときの発電量は入力の19.4%であるので損失エネルギーの約4.2倍のエネルギーを発電によって出力していることが判る。つまり本発明の効率は114.8%に達していることになる。しかも今後この効率は磁石の磁力を強化すること、またはコイルの長さや太さ、さらに鉄心の断面積などを工夫することで向上することができる。したがって、磁石の磁力はエネルギーであり電気エネルギーに変換が可能である。永年、学問上磁気エネルギーというものは存在しないとさ

れて来ました。しかし、本発明はこのことが誤りであり、生活エネルギーとして利用することも可能であることを実験結果で証明できる。なお、超電導コイルを使えば、さらに効率を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の正面図一部断面図

【図2】本発明の側面図一部断面図

【図3】本発明の接触スイッチ及びカムの拡大図一部断面図

【図4】本発明の配線図

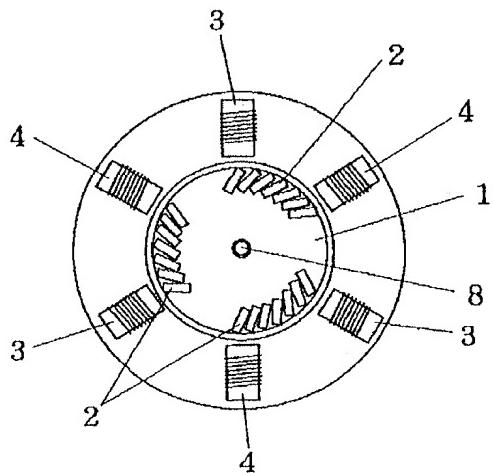
【図5】本発明の電磁石の両極を使った側面図一部断面図

【図6】本発明の磁石配列の断面図

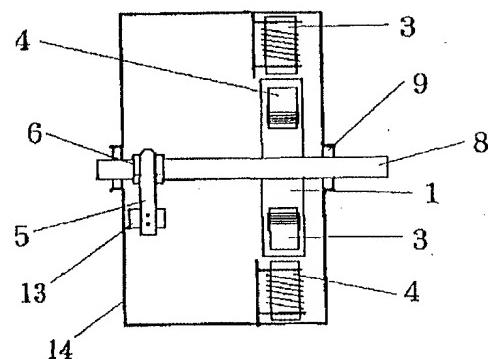
【符号の説明】

- 1 は回転子
- 2 は磁石
- 3 は電磁石
- 4 は電磁石
- 5 はブラシ
- 6 はカム
- 7 は接触スイッチ
- 8 は回転子軸
- 9 は軸受け
- 10 はブラシ
- 11 はブラシ押さえネジ
- 12 はネジ固定フレーム
- 13 はブラシ固定フレーム
- 14 は外枠

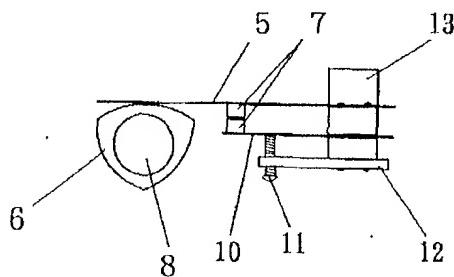
【図1】



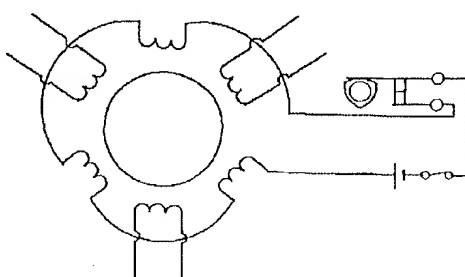
【図2】



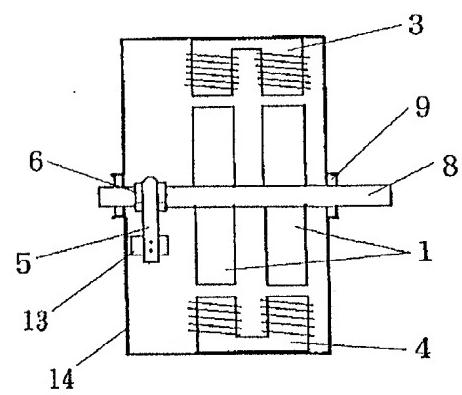
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

